



## 論文誌ジャーナル掲載論文リスト Vol.55 No.12 (Dec. 2014)



### 【一般論文】

- A DSL for Contract-Centric Compatibility Assessment in Distributed Services Aurelio Akira Mello Matsui 他
  - 音響情報のベクトル量子化を用いた音声ドキュメントからの検索語検出 坂本伊織 他
  - milter の組み合わせによる低配送遅延を目指した spam 対策メールサーバの設計と導入の効果について\* 松井一乃 他
  - 音響情報から抽出される作曲家らしさ認識のための音楽特徴量の提案と妥当性評価 長谷川隆
  - Development of resource management server for production IaaS services based on OpenStack Yoji Yamato 他
  - レイサンプリングによる効率的な分割統治法を用いたレイトレーシング 名畑豪祐 他
  - スマートフォンを活用した屋内環境における混雑センシング\* 西村友洋 他
  - SVM による笑顔度推定技術を用いた音楽療法効果の評価 嶋田敬士 他
  - 人見知りの子どもとロボットの良好な関係構築に向けた遊び行動の分析 阿部香澄 他
- \* : 推薦論文 Recommended Paper  
† : テクニカルノート Technical Note



## 論文誌トランザクション掲載論文リスト (Dec. 2014)

### 【論文誌 プログラミング Vol.7 No.5】

- Parallel Tree Contraction with Fewer Types of Primitive Contraction Operations and Its Application to Trees of Unbounded Degree Akimasa Morihata 他
- ディスク暗号化システムにおけるプリブート認証 OS を用いたユーザ認証方式 平兮 亮 他



### 【論文誌 コンシューマ・デバイス&システム Vol.4 No.4】

- 大規模組み込み機器におけるテスト自動化拡大方式 藤原貴之 他
- Co-migration of Virtual Machines with Synchronization for IDS Offloading Kenichi Kourai 他



### 【Transactions on Computer Vision and Applications Vol.6】

- Mathematical Information Retrieval (MIR) from scanned PDF and MathML conversion Azadeh Nazemi 他
- Parallel Java Code Generation for Layer-Unified Coarse Grain Task Parallel Processing Akimasa Yoshida 他



- Hyper-renormalization: Non-minimization Approach for Geometric Estimation Kenichi Kanatani 他



### 【Transactions on Bioinformatics Vol.7】

- An Effective Method for the Inference of Reduced S-system Models Shuhei Kimura 他



### 【論文誌 コンピューティングシステム Vol.7 No.4】

- 1.024GPU を使用したレプリカ交換分子動力学シミュレーションの並列化 老川 稔 他
- 電子ドキュメントに対する範囲選択手書きアノテーション認識モデル 浅井洋樹 他

- SIMD 演算の効率的利用に向けたアレイジョブ型 Hartree-Fock 法計算 本田宏明 他

- AVX2 を用いた倍精度 BCRS 形式疎行列と倍々精度ベクトル積の高速化 菱沼利彰 他



# 会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、10月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、巻頭コラム「コンピュータサイエンスルネッサンス」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■インスピレーションを受けた。興味深く考えさせられた。  
(石井一夫)

シニアコラム「IT好き放題:『情報処理』という言葉」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■自分自身で普通に使っている「処理」という言葉について、再考するきっかけになりました。  
(匿名希望)

特集「続・ソフトウェア工学の共通問題」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

「1. 共通問題の作成」  
■酒屋問題が何なのか分からず、導入でつまずいた。  
(匿名希望)

「2. PBLと共通問題」  
■前回の特集を読んでいる人を前提とした記事になっていた。  
(匿名希望)

「4. 座談会」  
■実应用到に近い研究分野であるが、実应用到に役立つ観点が少し弱く感じた。  
(匿名希望)

特集「モノづくりの現在」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■とても参考になりました。製品だけでなく、モノづくりに必要なモジュールもさまざまなものが世に出ているので、それらを整理して理解する良い機会になりました。  
(匿名希望)

■今月号のモノづくりの話題は生々しく、個々の工夫がよく分かりとても面白かったです。  
(高木 淳)

■ホットな話題で研究ではないビジネス動向や海外の話題もあり良かった。  
(匿名希望)

■モノづくりの今が垣間見られてとても興味深い特集でした。  
(匿名希望)

■とても興味深く読ませていただいた。今後もこのような特集を続けていただきたい。  
(匿名希望)

■3Dプリンタが普及したことにより、物理的な工作や作品の作成の敷居が大きく下がった。また、日本はモノづくりに固執したために結果的には製造コスト競争に巻き込まれて苦戦を強いられた。しかし、今回の記事を見てやはり日本人は(私も)モノづくりが好きであると再認識させていただいた。モノを作るうえでコストの話の切り離すことができないのは当然であるが、コスト競争力がなければ好きなモノづくりをやめることはできない。日本が好きなモノづくりを続けるためにはどのようにすればよいかを今後も考えていきたい。  
(匿名希望)

「1. ボクらはなぜ、作るのか」  
■この解説を読んで新しい知識が得られたので総合的には内容は悪くない。「クラウドファウンディング」は「クラウドファンディング」の書き違いだろうと判断したが、査読の段階や編集の過程で「クラウドファウンディング」の表記にチェックが入らなかったのだろうか。それともやはりこの表記が正しいのだろうか。  
(牛島和夫)

「2. 研究者のモノづくり」  
■自分もやりたいという気持ちが高まった。  
(匿名希望)

■作成手法や考え方がよく分かり、納得させられた。  
(匿名希望)

「6. ユメをカタチに」  
■起業のリスクについての記述が少ない。  
(匿名希望)

解説「現場で活躍する3D計測技術」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■非常に参考になりました。可能でしたら、今後も3D計測技術を取り上げていただきたいと思います。理論面の解説記事と具体的な応用事例がセットになっていると、非常に有用な情報になると思います。  
(菅野純一)

連載「ビブリア・トーク:ピープルウェア 第3版」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■この本の購読を検討したいと思った。  
(匿名希望)

解説「次世代HTTPストリーミング標準DASH」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました

■中だるみ気味。もう少しコンパクトだとよかった。  
(酒井保良)

■HTTP (Hypertext Transfer Protocol) など、大文字の省略形が初出のところで原綴を丹念に付記してあり、戸惑うことなく読み進むことができた。著者の心配りに謝意を表す。大文字の省略形が乱舞する文章は、特に専門外の場合に、読み進む気にならない。  
(牛島和夫)

教育コーナー「ぺた語義：『IT 融合人材育成連絡会』での検討結果について」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■いかにも昔風の会議といった印象。いまだき「天才か育成か」なんて議論している時期ではない。この記事の平凡さから何が問題かよく分かる。各委員の間でどういった熱心な議論が交わされたか紹介すべき。(柴田直樹)

■重木昭信氏の解説の中で、「普通の人材の『非凡な組合せ』」により非凡な着想が生まれる」を紹介している。本会では、PBLはソフトウェア開発の教育との関連で取り上げられることが多いように思うが、PBLは、学習・教育の一手段であって、ソフトウェア開発の学習・教育だけに適用されるものではない。色々な分野や背景を持った学生を集めてチームを形成したPBLが、重木氏の提案の解の1つになるのではないかと考えた。(牛島和夫)

連載「会誌編集委員会女子部」については、以下のようなご意見・ご感想をいただきました。

■読んで得られるものがない。(稲本 康)

会誌の内容や今後取り上げてほしいテーマに関して、以下のようなご意見やご要望をお寄せいただきました。今後の参考にいたします。

■多数の人が参加する会議の報告では、参加者一人一人がどのように議論に貢献したかを中心に解説してほしい。(柴田直樹)

■簡単なもので良いので、英文の記事を掲載してほしい。(水野光朗)

■「反転学習」をテーマとして取り上げてほしいです。(匿名希望)

■巻頭コラムの著者紹介は、英語と併用でも日本語の方が、本会誌に向いていると思います。(匿名希望)

■ハードウェア等のソフトウェア定義化が進んでいるが、その動向について。(匿名希望)

■テーマ：(地域)福祉 ICT 特集(例：生活弱者の安全に役立つ ICT ～技術・製品・サービス～)。小児の連れ去りや老人の孤独死を防止することを主目的とした、超安価な「ウェアラブル発信機」(ボタン1つで、何人かに SOS と現在地を急報)とそれを活用した「遠隔見守りサービス」など。(酒井保良)

■今後のトピックとしてはディープラーニングに興味がある。(匿名希望)

■一般のマスコミにはビジネスに直結しない話は載らないので、学問としての情報の記事を増やしてほしい。(匿名希望)

■今月号の「《解説》次世代 HTTP ストリーミング標準 DASH (平林光浩)」のような標準化動向についての記事をタイムリーに掲載していただくと良い。(稲本 康)

■目次における各記事の指標が色になっており、良いアイデアとは思いますが、気付きづらい。もっと分かりやすいアイコンにしてはどうか？ また、各記事の先頭にアイコンをつけてはどうか？(匿名希望)

■「モノづくりの現在」の特集や、「《解説》現場で活躍する 3D 計測技術」には写真が多く、まずそれで目をひきました。分かりやすい写真が多用されていると、興味を持ちやすく、理解もしやすいように思います。(匿名希望)

【本欄担当 油井 誠, 成見 哲/会員サービス分野】

これらのコメントは Web 版会員の広場「読者からの声」< URL : <http://www.ipsj.or.jp/magazine/dokusha.html> > にも掲載しています。Web 版では、紙面の制限などのため掲載できなかったコメントも掲載していますので、ぜひ、こちらもご参照ください。会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会 Web ページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/magazine/sippitsu/michishirube.html>> で

これからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

※ ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝または記念品を進呈いたします。

掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いたします。

<URL : <http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html>>

応募先 〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4F  
一般社団法人 情報処理学会 会誌編集部門  
E-mail : [editj@ipsj.or.jp](mailto:editj@ipsj.or.jp) Fax (03) 3518-8375  
<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>

ご意見をお寄せ  
ください!



# 人材募集 (有料会告)



**申込方法:** 任意の用紙に件名, 申込者氏名, 勤務先, 職名, 住所, 電話番号および請求書に記載する「宛名」, Web掲載の有無などを記載し, 掲載希望原稿 ([募集職種, 募集人員, (所属), 専門分野, (担当科目), 応募資格, 着任時期, 提出書類, 応募締切, 送付先, 照会先]) を添えて下記の申込先へ, E-mail, Fax または郵送にてお申し込みください。

\*都合により編集させていただく場合がありますので, ご了承ください。

**申込期限:** 毎月15日を締切日とし翌月号(15日発行)に掲載します。

**掲載料金:** 国公立教育機関, 国公立研究機関 税抜 20,000 円 (税込 21,600 円)

賛助会員 (企業) 税抜 30,000 円 (税込 32,400 円)

賛助会員以外の企業 税抜 50,000 円 (税込 54,000 円)

\*本会誌へ掲載依頼いただいた場合に限り, 追加料金 税抜 4,000 円 (税込 4,320 円) で同一内容を本会 Web ページに掲載できます。

**申込先:** 情報処理学会 会誌編集部門 (有料会告係) E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax(03)3518-8375

\*原稿受付の際には必ず原稿受領のお知らせを差し上げています。もし返信がない場合は念のため確認のご連絡をください。

**\*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと**

## ■電気通信大学大学院情報システム学研究科

募集人員	テニュアトラック助教 1名(常勤)
所属	情報システム基盤学専攻情報システム基礎学講座
専門分野	認知科学, 知覚・知能情報処理分野
担当科目	「情報システム基盤学基礎1・2」「情報システム基盤学合同輪講」などの大学院科目
応募資格	(1)採用時に博士の学位を有しており,かつ,上記募集分野において,優秀な研究を推進していること,(2)自律して独創的な研究を行いうる能力を有すること,(3)博士号取得後10年以内であること,(4)ポスドクの経験,またはそれに相当する経験を有することが望ましい,(5)日本語により学生を指導できること
着任時期	2015年4月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類	(1)応募申請書類(履歴書,研究業績リスト),応募申請書の様式をダウンロードし,記入してください( <a href="http://www.uec.ac.jp/about/advertisement/pdf/oubo_sinseisyo.pdf">http://www.uec.ac.jp/about/advertisement/pdf/oubo_sinseisyo.pdf</a> (PDFファイル), <a href="http://www.uec.ac.jp/about/advertisement/date/oubo_sinseisyo.doc">http://www.uec.ac.jp/about/advertisement/date/oubo_sinseisyo.doc</a> (MS-wordファイル)),(2)主要著書,論文別刷(5編,コピー可),(3)これまでの研究概要(A4用紙2枚以内),(4)今後の研究計画概要(A4用紙2枚以内),(5)いままでの教育経験と教育に関する抱負(A4用紙2枚以内),(6)参考となる意見を伺える方2名のお名前,所属,連絡先住所(E-mailアドレスを含む),および応募者との関係,(7)審査結果の返信用封筒(返信用の切手を貼る必要はありません)
応募締切	2015年1月6日17時(必着)
送付先	〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学大学院情報システム学研究科 事務室 「認知科学,知覚・知能情報処理分野教員応募書類在中」と朱書き簡易書留,併せて,発送の旨を下記照会先へE-mailによりお知らせください
照会先	情報システム基礎学講座 教授 南 泰浩 E-mail: minami.yasuhiro@is.uec.ac.jp
その他	ご応募の際は,必ず詳細をWebページ( <a href="http://www.is.uec.ac.jp/event/kobo/pdf/fs-1410.pdf">http://www.is.uec.ac.jp/event/kobo/pdf/fs-1410.pdf</a> )でご確認ください

**CONTENTS**

**Preface**

**IT for on-the-spot News Reports**  
Noriko HASHITANI (Newscaster)

**Special Features**

**Future of Human and ICT :**

**Only 30 Years until the Singularity?**

- 2 **0. Foreword**  
Masahiko TSUKAMOTO (Kobe Univ. )
- 4 **1. Wonder and Horror of Coming Technological Singularity and Superintelligence**  
Takuya MATSUDA (NPO Einstein)
- 15 **2. Singularity and Future of AI**  
Hitoshi MATSUBARA (Future Univ. Hakodate)
- 19 **3. Issues in Singularity : Interview with Ray Kurzweil**  
Hideyuki TOKUDA (Keio Univ.)
- 23 **4. Business Impacts Brought by the Singularity**  
Masayuki HIROGUCHI (Ricoh Japan)
- 27 **5. Singularity University**  
Takemi SASAKI (Japan Exponential Technologies Institute)
- 30 **6. How Exponential Technology Companies Solve Problems and Create Fantastic Future**  
Takao KOIZUMI (Japan Exponential Technologies Institute)
- 32 **7.1 The World Beyond Singularity**  
Hideyuki NAKASHIMA (Future Univ. Hakodate)
- 34 **7.2 Puzzling Over Singularity**  
Yuko MURAKAMI (Tohoku Univ.)
- 36 **7.3 Singularity : Nothing Changes**  
Yukio-Pegio GUNJI (Waseda Univ.)
- 39 **7.4 Intelligence Beyond the Study of Human**  
Masao KUROSAKI (Tokyo Woman's Christian Univ.)
- 41 **7.5 What Do You and I Want to Do toward the Technological Singularity?**  
Koichi HORI (The Univ. of Tokyo)
- 44 **7.6 Question to the Singularity From SF's Point of View**  
Jyouji HAYASHI (Science Fiction and Fantasy Writers of Japan)
- 47 **7.7 Fermi Paradox and Singularity**  
Housuke NOJIRI (Space Authors Club)

**Special Features**

**Towards the Goal of Establishing Contest Style Project-Based Learning to Develop Innovators for Embedded System**

- 50 **0. Foreword**  
Kenji HISAZUMI (Kyushu Univ.) and Harumi WATANABE (Tokai Univ.)
- 53 **1. How Did We Lift Off the Contest Style Education for Embedded System Development**  
Takao FUTAGAMI (Toyo Corp.)
- 56 **2. Challenge of Practical Education in Japanese Universities**  
Akira FUKUDA (Kyushu Univ.)
- 58 **3. An Interdisciplinary and Global Project-Based Learning Employing Robot Challenge**  
Kenji HISAZUMI (Kyushu Univ.)
- 62 **4. A Contribution to Model Driven Development of Embedded System**  
Kenji HISAZUMI (Kyushu Univ.) and Harumi WATANABE (Tokai Univ.)

- 65 **5. On Problems in a Blimp System Design Competition MDD/ESS Robot Challenge Intended as Open Common Case Studies for Embedded System Education**  
Nobuhiko OGURA (Tokyo City Univ.) and Shin KUBOAKI (Change Vision Inc.)
- 68 **6. Software from the Perspective of Control Engineering - Control and Software in Robot Development**  
Masafumi MIWA (Tokushima Univ.)
- 71 **7. Applied Education of Machine Learning Using ESS Robot Challenge Problem**  
Makoto MOTOKI (Kanto Gakuin Univ.)
- 74 **8. Robot PBL for Under Graduate Students - A Case Study in Beginners Programming Training Class -**  
Midori SUGAYA, Rumi YATAGAWA and Toru SUGIMOTO (Shibaura Institute of Technology)
- 77 **9. A Elementary and Secondary School Learning Program for Information Studies - Let's go! Magical Spoons -**  
Mizue KAYAMA (Shinshu Univ.)
- 80 **10. Round - Table Talk - 10th Anniversary of the Robot Challenge**  
Shintaro HOSOAI (Kyushu Univ.) and Masashiro OYAMA (Renesas System Design Co., Ltd.)
- 84 **11. Letter : ESS Robot Challenge 2014 - Towards Next 10 Years**  
Harumi WATANABE (Tokai Univ.)

**Special Round-Table Talk**

- 86 **The Three Chief Editors Couldn't Get Exhausted Topics**  
Keiji HIRARA (Future Univ. Hakodate), Masahiko TSUKAMOTO (Kobe Univ.) and Kentaro INUI (Tohoku Univ. )

**Senior Column : Messages on Favorite IT**

- 49 **Signal and Noise in ICT**  
Tokumichi MURAKAMI (Waseda Univ.)

**"Peta-gogy" for Future**

- 93 **Our Recent Developments in Cooperation with the Bunkyo City Board of Education**  
Yasuichi NAKAYAMA (The Univ. of Electro-Communications)
- 94 **Nationwide Survey of Information Education as General Education (2)**  
Shigetou OKABE (Hokkaido Univ.)

**Series : Pilgrimage to Vintage Computers / Trail Blazers' Recollections of 0's and 1's**

- 98 **Oral History : Interview with Kohei Amo**  
Chigusa KITA (Kansai Univ.), Hiroshi HATTA (OKI Consulting Solutions Co., Ltd.) and Akihiko YAMADA (Computer Systems and Media Lab.)

- 
- 106 **Biblio Talk**
  - 108 **The Women's Club of the Editorial Committee of the IPSJ Magazine**
  - 110 **Conference Report**

# IP SJ カレンダー

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
	論文誌「E-Service and Knowledge Management toward Smart Computing Society」特集への論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/15-T.html">http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/15-T.html</a>	12月19日(金)		
12月15日(月)	第177回知能システム研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ics177.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ics177.html</a>	11月4日(火)	当日のみ	株式会社ドワンゴ 14階セミナールーム
12月15日(月)～	第104回音声言語情報処理研究発表会	10月23日(木)	当日のみ	東京工業大学
12月16日(火)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/slp104.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/slp104.html</a>			すすかけ台キャンパス
12月16日(火)～	第219回自然言語処理研究発表会	10月23日(木)	当日のみ	東京工業大学
12月17日(水)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/nl219.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/nl219.html</a>			すすかけ台キャンパス
12月18日(木)	第40回バイオ情報学研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/bio40.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/bio40.html</a>	11月7日(金)	当日のみ	産業技術総合研究所
12月19日(金)～	第34回エンタテインメントコンピューティング研究発表会	10月24日(金)	当日のみ	九州大学
12月20日(土)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ec34.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ec34.html</a>			大橋キャンパス
12月26日(金)	第4回災害コミュニケーションシンポジウム <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/spts2014.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/spts2014.html</a>		定員になり次第	京都大学 防災研究所
<b>2015年</b>				
	2014年度長尾真記念特別賞候補者推薦募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/topics/nagao_boshu2014.html">http://www.ipsj.or.jp/topics/nagao_boshu2014.html</a>	1月9日(金)		
	デジタルプラクティス「UXが拓く新しいデザインの世界」特集論文募集 2月5日(木) <a href="http://www.ipsj.or.jp/dp/cfp/dp0604s.html">http://www.ipsj.or.jp/dp/cfp/dp0604s.html</a>			
	論文誌「ヒューマンファクタを考慮したセキュリティとプライバシー」2月27日(金) 特集への論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/15-Y.html">http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/15-Y.html</a>			
	論文誌「スマートコミュニティ実現のための高度交通システムとモバイル通信」特集への論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-C.html">http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-C.html</a>	3月27日(金)		
	論文誌「創造する時代のコラボレーション支援とネットワークサービス」特集への論文募集 <a href="http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-D.html">http://www.ipsj.or.jp/journal/cfp/16-D.html</a>	4月1日(水)		
1月9日(金)～	第56回プログラミング・シンポジウム			ラフォーレ倶楽部
1月11日(日)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/prosym/">http://www.ipsj.or.jp/prosym/</a>			伊東温泉湯の庭
1月13日(火)～	第102回プログラミング研究発表会	11月14日(金)	当日のみ	宮崎大学
1月14日(水)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/pro102.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/pro102.html</a>			木花キャンパス
1月13日(火)～	第151回アルゴリズム研究発表会	11月14日(金)	当日のみ	名古屋工業大学
1月14日(水)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/al151.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/al151.html</a>			
1月14日(水)～	第161回ヒューマンコンピュータインタラクション研究発表会	11月19日(水)		箕面観光ホテル
1月15日(木)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hci161.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/hci161.html</a>			
1月19日(月)～	第220回自然言語処理研究発表会	12月2日(火)	当日のみ	九州大学医学部
1月20日(火)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/nl220.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/nl220.html</a>			百年講堂
1月20日(火)～	The 8th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous			ロワジュールホテル函館
1月22日(木)	<a href="http://www.icmu.org/icmu2015/">http://www.icmu.org/icmu2015/</a>			
1月22日(木)～	ウィンターワークショップ2015・イン・宜野湾			カルチャーリゾート
1月23日(金)	<a href="http://www.sigse.jp/2015/">http://www.sigse.jp/2015/</a>			フェストーネ
1月22日(木)～	第195回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会	11月13日(木)	当日のみ	奈良先端科学技術
1月23日(金)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cvim195.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cvim195.html</a>			大学院大学
1月26日(月)～	第93回GN・第12回CDS・第9回DCC合同研究発表会	11月25日(火)	当日のみ	壱岐文化ホール
1月27日(火)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/gn93cgs12dcc9.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/gn93cgs12dcc9.html</a>			
1月26日(月)～	Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI) 2015 <a href="http://acsi.hpcc.jp/2015/">http://acsi.hpcc.jp/2015/</a>	9月26日(金)		つくば国際会議場
1月29日(木)～	第206回計算機アーキテクチャ研究発表会	11月13日(木)	当日のみ	慶應義塾大学
1月30日(金)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/arc206.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/arc206.html</a>			日吉キャンパス
1月29日(木)～	第169回システムとLSIの設計技術研究発表会	11月14日(金)	当日のみ	慶應義塾大学
1月30日(金)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/sldm169.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/sldm169.html</a>			日吉キャンパス
1月30日(金)	東海支部主催講演会「OSSとクラウドの徹底活用による先進的なIT基盤へのチャレンジ」 <a href="http://www.ipsj-tokai.jp/">http://www.ipsj-tokai.jp/</a>		当日のみ 参加無料 会員外の方も参加可	名古屋工業大学
1月31日(土)	第105回人文科学とコンピュータ研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ch105.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ch105.html</a>	12月1日(月)	当日のみ	大阪国際大学
1月31日(土)	第15回教育学習支援情報システム研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cle15.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/cle15.html</a>	12月5日(金)	当日のみ	守口(もりぐち)キャンパス 東京学芸大学
2月3日(火)	ソフトウェアアジア2015 <a href="http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2015/">http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2015/</a>		1月23日(金)	タワーホール船堀
2月26日(木)～	第132回システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会	1月13日(火)	当日のみ	長崎大学
2月27日(金)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/os132.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/os132.html</a>			文教キャンパス
3月2日(月)～	第74回モバイルコンピューティングとユビキタス通信・	12月24日(水)	当日のみ	芝浦工業大学
3月3日(火)	第45回ユビキタスコンピューティングシステム合同研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mb174ubi45.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/mb174ubi45.html</a>			豊洲キャンパス
3月5日(木)～	第28回インターネットと運用技術研究発表会	1月9日(金)	当日のみ	小名浜オーシャンホテル
3月6日(金)	<a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/iot28.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/iot28.html</a>		※宿泊に関しては 研究会Webページ参照	(福島県いわき市)

開催日	名 称	論文等応募締切日	参加締切日	開催地
3月5日(木)～ 3月6日(金)	第162回マルチメディア通信と分散処・ 第68回コンピュータセキュリティ合同研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/dps162csec68.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/dps162csec68.html</a>	1月9日(金)	当日のみ	法政大学 小金井キャンパス
3月12日(木)～ 3月13日(金)	第187回ソフトウェア工学研究発表会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/se187.html">http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/se187.html</a>		当日のみ	化学会館 会議室
3月17日(火)～ 3月19日(木)	情報処理学会 第77回全国大会 <a href="http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/77/">http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/77/</a>	講演申込登録 11月21日(金) 19:00	事前予約申込登録 2月20日(金)	京都大学 吉田キャンパス
9月15日(火)～ 9月17日(木)	FIT2015 第14回情報科学技術フォーラム <a href="http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2015/">http://www.ipsj.or.jp/event/fit/fit2015/</a>			愛媛大学 城北キャンパス

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報

[トピックス]

- 11月18日 就職情報(広告)のお申し込み受付中
- 11月18日 「2020年代に向けた情報通信政策の在り方」答申(案)に対する意見
- 11月17日 デジタルプラクティス「UXが拓く新しいデザインの世界」特集論文募集
- 11月15日 人材募集情報(Vol.55 No.12)
- 11月15日 会誌「情報処理」Webカタログ(Vol.55 No.12)

# ソフトウェアジャパン 2015 開催のご案内

『ICTによるイノベーションの創出～スマートシティからオリンピック・パラリンピックまで～』  
<http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2015/>

開催日時：2015年2月3日（火） 9：30～18：40（予定） [開場 / 受付開始 9：00～]

開催会場：タワーホール船堀（東京都江戸川区船堀 4-1-1）\* 都営地下鉄新宿線「船堀」北口出口 徒歩1分

主催：一般社団法人 情報処理学会

協賛：一般社団法人 情報サービス産業協会、一般社団法人 日本情報システム・ユーザー協会、一般社団法人 電子情報技術産業協会、先端IT活用推進コンソーシアム、一般社団法人 電子情報通信学会、一般社団法人 日本ソフトウェア科学会、独立行政法人 科学技術振興機構、国立情報学研究所、独立行政法人 情報通信研究機構

後援：文部科学省、経済産業省、総務省、独立行政法人 情報処理推進機構

概要：ソフトウェアジャパン 2015では、ICTによるイノベーションの創出をメインテーマに、日本における科学技術イノベーションだけでなく社会イノベーションも含め、イノベーション創出に関わる制度的、文化的課題、日本発ITベンチャーの課題、人材育成の課題などに関して幅広く議論します。IT業界における多くの破壊的イノベーションは、米国発のものが多く、なぜ日本のIT企業では破壊的イノベーションが起こりにくいのかについても多面的な議論を進めます。

具体的には、各国で盛んに研究開発プロジェクトが進められているICTによるスマートシティ作り、2020年に東京での開催が決定したオリンピック・パラリンピックでのICT活用、日本発ソフトウェアベンチャーなどについて議論します。また、2020年のオリンピック・パラリンピックという世界にアピールすべき格好のデモンストレーションの場に向けて、IT業界は、何を準備し、どのような技術的・社会的イノベーションを起こし、ポストオリンピック・パラリンピックを視野にいたした社会のデザインをすべきかについて議論します。

参加費：

	申込区分	事前申込（税込）	当日価格（税込）
午前ITフォーラムセッション	不問	無料	無料
午後メインセッション	1. 情報処理学会正会員・賛助会員	5,500円	7,000円
	2. 関連学協会・協賛団体の正会員・賛助法人会員	7,500円	9,000円
	3. 上記1、2以外の一般参加者	10,500円	12,000円
	4. 学生 一律	1,000円	1,000円

参加申込：標記のWebサイトから事前申込をお願いします。

参加申込締切：2014年1月23日（金） \*メインセッション、ITフォーラムセッションとも定員になり次第締切

問合せ先：情報処理学会事業部門 Tel.(03)3518-8373 E-mail: jigyo@ipsj.or.jp

## ■メインセッションプログラム（13：00～18：40（予定））[会場：5F大ホール]

13：00～13：05	Opening
13：05～16：20	第1セッション：キーノートセッション
13：05～13：50	基調講演：「ICTイノベーションとビジネス」 川上 量生（株式会社KADOKAWA・DWANGO 代表取締役会長）
13：55～14：40	招待講演（1）「スマートシティに関する世界のベストプラクティスご紹介」 木下 剛（シスコシステムズ合同会社 専務執行役員）
14：45～15：30	招待講演（2）「東京オリンピック・パラリンピック2020の先を見据えて」 有本 建男（独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 副センター長）
15：35～16：20	招待講演（3）「もう日本のソフトウェアは海外で羽ばたくチャンスはないのか？」 平野 洋一郎（インフォテリア株式会社 代表取締役社長/CEO / メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア (MIJS) コンソーシアム理事長)
16：40～17：50	第2セッション：パネル討論「イノベーションのデザイン：日本/世界でどのように破壊的イノベーションを起こすか？」
司 会：徳田 英幸（情報処理学会 ソフトウェアジャパンプログラム委員会 委員長 / 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 委員長 兼 環境情報学部 教授）	
パネリスト：川上 量生（株式会社KADOKAWA・DWANGO 代表取締役会長） 木下 剛（シスコシステムズ合同会社 専務執行役員） 有本 建男（独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 副センター長） 平野 洋一郎（インフォテリア株式会社 代表取締役社長/CEO / メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア (MIJS) コンソーシアム理事長） 後藤 真孝（産業技術総合研究所・情報技術研究部門・首席研究員）	
18：00～18：35	第3セッション：ソフトウェアジャパンアワードセレモニー
18：05～18：20	受賞スピーチ（1）「オープンソースソフトウェアとビジネス」 藤田 智成（日本電信電話株式会社 NTT ソフトウェアイノベーションセンタ 主任研究員）
18：20～18：35	受賞スピーチ（2）「Egison — 表現の新たな抽象化の発見」 江木 聡志（楽天株式会社 楽天技術研究所 アソシエイト サイエнтиスト）
18：35～18：40	Closing
18：50～20：25	情報交換会（懇親会） / デジタルプラクティスアワード表彰式

■ IT フォーラムセッションプログラム (09:30 ~ 12:00)

<p><b>サービスサイエンスフォーラム</b> 「サービスの価値は4つの要素が決めている」</p> <p><b>【セッション概要】</b> サービスビジネスの大きな悩みは、サービスは利益を出しにくいことである。お客様から妥当な対価をいただくためには、提供するサービスに価値がなければならない。ところがサービスの価値は、交換価値、使用価値、経験価値、知覚価値、文脈価値、感性価値などがあり、とても分かりにくい。そこで、本フォーラムではサービスの価値について議論を深めてきた。その結果、サービスの価値を決めているのは、「サービスの成果の大きさ」、「サービスプロセスの良さ」、「顧客の個別的な事前期待への対応度」、「サービス品質の良さ」の4つの要素であることが分かってきた。この大胆な仮説を講演とパネルディスカッションで議論する。また、昨年のサービスサイエンスフォーラムで会場から強い要望があった「サービスの価格はどうやって決めればいいのか」についても本フォーラムで果敢に議論してみたい。</p>
<p><b>高度 IT 人材育成フォーラム</b> 「IT 人材育成に関わる様々な取組みと情報処理学会の貢献」</p> <p><b>【セッション概要】</b> IT 人材育成分野で行われている様々な取組み（技術士制度改革、融合 IT 人材育成、ISO/IEC 24773 改訂など）について紹介し、それらの取組みに対して情報処理学会や認定情報技術者制度（CITP）がどのような貢献を為し得るのかについてパネル討論を行い、理解を深める。</p>
<p><b>コンタクトセンターフォーラム</b> 「コンタクトセンターの価値向上と経営貢献」</p> <p><b>【セッション概要】</b> 当フォーラムは、3年に渡り一貫して経営に貢献するコンタクトセンターをテーマとして、経営貢献についての考え方を整理し、経営貢献の見える化、先進のコンタクトセンターの事例研究に取り組んできた。多くの先進事例に共通することは、お客さまから見たコンタクトセンターの価値を高める努力し続けてきたということだ。その結果が同時に経営への貢献に繋がっている。そこで、今回のフォーラムでは、先進的取り組みを進めておられる各社にその取り組み事例を語って頂き、お客様にとってのコンタクトセンターの価値を高めるには、どうしたらいいかについて、皆さんと一緒に考えていきたい。</p>
<p><b>ビッグデータ活用実務フォーラム</b> 「ビッグデータ分析をビジネスに活かす」</p> <p><b>【セッション概要】</b> 本フォーラムでは、ビッグデータの分析による組織・顧客・社会の課題解決の実践とそこから得られた知見に関する事項を議論します。本学会ではこれまでビッグデータに関わる企画を実施してきましたが、大量のデータを高速に処理するためのシステムをどのように設計・構築・運用するかというシステム視点の取り組みがやや多くなっていました。一方、組織・顧客・社会の課題解決のために、ビッグデータから何をどのように導き出すかという、データ分析プロセスや分析者に目を向けた取り組みも見られたのは興味深いことでした。本フォーラムでは、デジタルプラクティス論文誌 2015 年 7 月特集号企画「ビッグデータ分析をビジネスに活かす」と連携し、ビッグデータの分析の取り組みを、(1) データ分析プロセス、(2) データ分析の使いこなし、(3) データ分析者の3つの視点を中心に取り上げたいと考えています。</p>
<p><b>IT ダイバーシティフォーラム</b> 「リケ女のすすめ：日本が世界に生み出す「かわいい」IT」</p> <p><b>【セッション概要】</b> 調整中</p>
<p><b>IT 未来人材フォーラム</b> 「中高生向けプログラミング教育の現状と今後」</p> <p><b>【セッション概要】</b> 中高生、あるいは小学生の若いうちにプログラミングを通して情報技術を理解することは、将来の IT クリエータ養成に資するものと考えられる。学校の授業で行われる「情報」がスキル教育中心になっている中、株式会社、NPO、任意団体など、学校の外で、さまざまな形で、中学生、高校生にプログラミングを教える取り組みが広がっている。本セッションでは、実際に活動される方に講演いただき、プログラミング言語、方法論、今後の発展のさせ方まで、幅広く議論したい。</p>
<p><b>ユニバーサルデザイン協創フォーラム [展示]</b> 「見えなくても中身がわかる!! バーコードを用いた視覚障害者向け商品案内」</p> <p><b>【展示概要】</b> まとめ買いしてきた商品や、棚の奥にしまっていた缶詰め、いままさに空けようとしているペットボトルの中身、インスタントラーメンの味が、空ける前になんだかわかったら、生活が楽しくならないでしょうか。バーコードを読み取って、視覚に障害のある人に音声で知らせるプロジェクトをはじめます。本年の展示では、さわってバーコードの位置がわかるパッケージや、OCR を利用して賞味期限を読み上げる携帯機器を展示します。会場で体験もできますので、視覚に障害のある方もない方もぜひいらして体験してみてください。また、腕に自信のある方、ぜひフォーラムに参加して、ソフト開発にご協力ください。</p>
<p><b>IPA/SEC 情報処理推進機構 (関連団体)</b> 「異分野情報活用とイノベーション～製品・IT サービスの安全・安心のための仕組みと人材～」</p> <p><b>【セッション概要】</b> 社会や組織のイノベーションが実現することにより、それが基盤となって、異種・多様な“文化”の交わりから生活や技術のイノベーションが生まれます。まず、これまで各組織内に閉じて保持され外部に出ることのなかった、システム障害情報やサイバーセキュリティ情報、製品等の品質情報を社会全体で共有する仕組みの構築が求められます。この仕組みの下で、異分野の多様な情報と知見が共有され、製品や情報システムの信頼性・安全性のより一層の向上が期待できます。そして、これらのイノベーションを担う人材の育成もまた、重要です。IPA では、これら2種のイノベーション創出に向け、多方面の関係者のご理解とご協力を得ながら、総合的に取り組んでいます。本セッションでは、これら IPA の取組みの概要と状況を紹介いたします。</p>
<p><b>AITC 先端 IT 活用推進コンソーシアム (関連団体)</b> 「日本発！マンガ駆動開発のすゝめ」</p> <p><b>【セッション概要】</b> 日本が誇るマンガ文化が開発を変える！ 昨今、IT システムにおいて単にその機能の優劣ではなくユーザーに提供できる経験の価値が重要視されるようになり、そのためのデザインが行われるようになりました。しかし、デザインされたユーザーの経験の可視化や実際の開発への適用について、現状の開発プロセスには UX を実現するために決定的と思われるツールはありませんでした。AITC ではその活動の中で、ユーザー経験をマンガで表現しマンガをキーに開発を行うという新しい開発プロセスをデザインしました。本セッションではマンガ駆動開発とは何か、そしてその事例についてご紹介いたします。</p>

**情報処理学会第77回全国大会イベント企画のみ聴講参加「無料」!!**  
**事前予約申込はこちらから⇒<http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/77/>**

## 第77回全国大会 聴講参加・講演論文集・懇親会事前予約の御案内 『社会に浸透し、社会を変革する ICT』

大会会期：2015年3月17日（火）～19日（木）  
大会会場：京都大学 吉田キャンパス（京都市左京区吉田本町）  
共催：京都大学大学院情報学研究所・学術情報メディアセンター  
後援：言語処理学会/IT コンソーシアム京都/近畿情報通信協議会/京都府教育委員会/京都市教育委員会/  
全国高等学校情報教育研究会/大阪私学教育情報化研究会/  
大阪府高等学校情報教育研究会/奈良県情報教育研究会

情報処理学会第77回全国大会の「大会聴講参加」「講演論文集DVD-ROM・冊子」ならびに「懇親会参加」の事前予約申込受付を開始いたします。今回の全国大会では、**第1～6イベント会場において開催される招待講演・特別講演企画、イベント企画のみを聴講希望の場合には、大会聴講参加費を会員・非会員、一般・学生を問わず全て「無料」とさせていただきます。**

イベント企画のみ聴講希望の方は、大会Webページから事前予約申込みを頂く際「大会イベント企画限定聴講参加」の方にお申込みください。通常の一般セッション・学生セッションも聴講希望の場合には、聴講参加費は「有料」となりますので、「大会共通聴講参加」の方にお申込みください。皆様どうぞお問い合わせのうえお申込みください。

**事前予約申込受付期間：2014年12月12日～2015年2月20日**

**招待講演・特別講演企画【聴講参加無料】**：招待講演5件、特別講演1件を予定しております。

招待講演-1	17日(火) 16:55-17:25 第1イベント会場[百周年時計台記念館 1F 百周年記念ホール] 「The IEEE Rebooting Computing Initiative」 Thomas M. Conte (IEEE Computer Society President)
招待講演-2	17日(火) 17:30-18:00 第1イベント会場[百周年時計台記念館 1F 百周年記念ホール] 「Why the CCF is Unique?」 Zide Du (China Computer Federation CEO)
招待講演-3	18日(水) 13:00-14:00 第1イベント会場[百周年時計台記念館 1F 百周年記念ホール] 「計算機視覚技術の古くからの問題と新たな可能性」 金出 武雄 (カーネギーメロン大学 ロボット研究所 ワイタカー記念全学教授)
招待講演-4	18日(水) 14:05-15:05 第1イベント会場[百周年時計台記念館 1F 百周年記念ホール] 「言語以前のコミュニケーション」 山極 寿一 (京都大学 総長)
招待講演-5	19日(木) 13:25-14:25 第1イベント会場[百周年時計台記念館 1F 百周年記念ホール] 「情報処理技術を用いた脳の情報の解釈と制御」 川人 光男 (株式会社国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所 所長)
特別講演	17日(火) 16:35-16:50 第1イベント会場[百周年時計台記念館 1F 百周年記念ホール] 「ITの、ITによる、ITの為のスーパーコンピュータ研究」IEEE Computer Society Sidney Fernbach 賞受賞によせて 松岡 聡 (東京工業大学 学術国際情報センター 教授)

**イベント企画【聴講参加無料】**：各イベント企画では、その分野の最前線で活躍されておられる方をお招きし講演、パネル討論等の開催を予定しております。

第1イベント会場 百周年時計台 記念館 1F 百周年記念ホール	17日 9:30-12:00 「情報学シンポジウム「ビッグデータとヒューマンサイエンス」」
	17日 13:00-15:00 「IPSJ-ONE」
	18日 9:30-12:00 「ソーシャル・ビッグデータが切り拓く新しい社会-ビッグデータの可能性と課題-」
	18日 15:20-17:50 「CREST・さきがけ「ビッグデータ」2領域 成果報告会」
	19日 9:30-12:00 「オリンピックに見る日本の ICT 技術」
第2イベント会場 百周年時計台 記念館 2F 国際交流ホール II, III	19日 14:40-17:10 「コンシューマサービス温故知新」
	17日 13:00-16:00 「京都大学第9回 ICT イノベーション」
	18日 9:30-12:00 「国際通用性のある主体的学習者を育てためのラーニングアナリティクス」
	18日 15:20-18:35 「Samurai Coding 2014-15 World Final」
	19日 9:30-12:00 「知のコンピューティング序章」
	19日 14:40-17:10 「トップランナーが語る IT の未来」

第3 イベント会場 吉田南総合館 2F 共北 25	17日 9:30-12:00 「論文必勝法 ～査読の現場から～」 17日 13:00-15:30 「弁護士と実務家が語る ICT の落とし穴」 18日 9:30-12:00 「集合知がつくる未来の街歩き」 18日 15:20-17:50 「データの価値・活用方法発見ワークショップ『Innovators Marketplace on Data Jackets』」 19日 9:30-12:00 「情報処理と折り紙」 19日 14:40-17:10 「無人機の最新技術紹介」
第4 イベント会場 吉田南総合館 2F 共北 26	17日 9:30-12:00 「会誌「情報処理」公開編集委員会」 17日 13:00-15:30 「IT 技術者にとってのパーソナルデータの扱い方を考えよう ～何がパーソナルデータになり得るのか、我々はどう扱えばいいのか～」 18日 9:30-12:00 「M2M の社会実装と将来の象 (かたち)」 18日 15:20-17:50 「災害情報処理を考える」 19日 9:30-12:00 「デジタルプラクティスライブ」 19日 14:40-17:10 「ダイバーシティの実現化を目指してー女性 IT 技術者の活躍について考える」
第5 イベント会場 吉田南総合館 2F 共北 27	17日 10:00-12:00 「～コンピュータパイオニアが語る～「私の詩と真実」」 17日 13:00-15:30 「計算に潜む数理, 計算としての数理 --- 証明はプログラミング!」 18日 9:30-12:00 「さきがけ「情報環境と人」～「はばたく」さきがけ研究の成果から～」 18日 15:20-17:50 「さきがけ「情報環境と人」～「はばたく」さきがけ研究の成果から～」 19日 9:30-12:00 「デジタルフォレンジック (デジタル鑑識) を支える情報処理技術」 19日 14:40-17:10 「クラウドソーシング研究・応用の最新動向」
第6 イベント会場 吉田南総合館 2F 共北 28	17日 9:30-12:00 「「会員の力を情報教育の支援につなげる」には?」 17日 13:00-15:30 「初等中等情報教育のあるべき姿： 高校共通教科「情報」を中心に二期学習指導要領改訂に向けて」 18日 9:30-12:00 「国際的に通用する高度 IT 技術者の育成・評価を推進する戦略とは？ ーJ07, JABEE, 技術士, CCSF, CITP, ISO/IEC 24773 を巡って」 18日 15:20-17:50 「大学の一般教育における情報教育で何を学ぶのか」 19日 9:30-12:00 「「次世代 e ラーニング研究」シンポジウム (1)」 19日 14:40-17:10 「「次世代 e ラーニング研究」シンポジウム (2) ～新たな ICT 活用による学びの変革～」

**一般セッション・学生セッション【聴講参加 有料】：**

約 1,400 件の研究成果発表があります。大会 3 日間でおおよそ 30 会場を使用して、190 あまりのセッションが生まれ、活発な発表、議論・討論が行われます。

**懇親会【有料】：**

毎回多数の方にご参加をいただき親睦を深めております。

開催日時：2015 年 3 月 17 日 (火) 18:15～20:15 (予定)

開催会場：京都大学 吉田キャンパス 百周年時計台記念館 2F 国際交流ホール (予定)

**■聴講参加費・講演論文集代・懇親会参加費 (税込)**

申込種別	予価 (2/20迄)	定価
大会イベント企画のみ聴講参加	無料	無料
大会共通聴講参加 (正会員)	3,100円	4,000円
大会共通聴講参加 (正会員) *DVD-ROM 1枚付き	8,300円	9,000円
大会共通聴講参加 (一般非会員)	6,200円	7,000円
大会共通聴講参加 (学生会員・学生非会員)	無料	無料
懇親会参加 一般 (正会員・一般非会員)	4,000円	5,000円
懇親会参加 学生 (学生会員・学生非会員)	2,000円	3,000円
講演論文集分冊 (個人・法人問わず)	12,400円	14,000円
講演論文集セット *DVD-ROM 1枚付 (個人・法人問わず)	58,700円	63,000円
講演論文集DVD-ROM (個人)	9,000円	9,000円
講演論文集DVD-ROM (法人)	57,000円	57,000円
送料	セットおよび4冊以下	800円
	5冊以上	1,100円
	DVD-ROM 1枚につき	600円

**■留意事項**

※「大会イベント企画のみ聴講参加」は、招待講演企画・イベント企画 (大会第1～6 イベント会場で行われるイベント企画) ・各種展示のみ聴講参加可能です。一般セッション・学生セッションの聴講はできませんのでご注意ください。

一般セッション・学生セッションも聴講参加希望の場合には、大会共通聴講参加 (有料) の方にお申込みください。

※「大会共通聴講参加」は、一般セッション・学生セッションを含む大会全てのセッションの聴講参加が可能です。

※DVDは学生限定・大会会場限定で学割会場販売 (5,000円) いたします。

※講演論文集、DVD-ROM共に、大会開催前の事前発送は致しておりません。

受取りは当日会場受取りか大会終了後の郵送となります。

※講演論文集またはDVD-ROMを郵便で受け取る場合には別途送料がかかります。

※講演参加申込の方は聴講参加申込は不要です。聴講参加をお申込みになりますと二重申込となりますのでご注意ください。

**■聴講参加および講演論文集の予約申込、詳細は、以下のサイトからお願いいたします。**

第77回全国大会公式Webサイト <http://www.ipsj.or.jp/event/taikai/77/>

**■問合せ先**

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-5 化学会館4F

一般社団法人情報処理学会 事業部門

電話 (03) 3518-8373

FAX (03) 3518-8375

e-mail: [jigyo@ipsj.or.jp](mailto:jigyo@ipsj.or.jp)

## 各賞表彰(概要)

詳細は Web サイト ([http://www.ipsj.or.jp/award/sho\\_index.html](http://www.ipsj.or.jp/award/sho_index.html)) をご覧ください

### 2014 年度ソフトウェアジャパンアワードの表彰

本会では 2004 年度から毎年産業界向けのイベントとして「ソフトウェアジャパン」を開催しており、同イベントにおいて、日本発の世界に誇るソフトウェアの研究者、開発者、技術者で、情報技術分野において特に産業界への功労がありその業績が顕著であると共に、今後の産業界への活躍が期待できる方へ「ソフトウェアジャパンアワード」を贈呈しております。

本年度の受賞者は、技術応用運営委員会、IT フォーラム推進委員会、当該ソフトウェアジャパンプログラム委員会、ソフトウェアジャパン実行委員会の各委員および情報処理学会フェロー、各研究会主査から推薦された候補者のうち、表彰規程およびソフトウェアジャパンアワード選定手続きに基づき、選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認(2014 年 9 月 24 日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる)を得て、下記 2 君に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、ソフトウェアジャパン 2015 において、表彰状、副賞および賞金が授与される予定です。

- 「オープンソースソフトウェアの開発とグローバル展開及び実用化」  
藤田智成君
- 「パターンマッチ指向プログラミング言語 Egison の設計・開発」  
江木聡志君



ソフトウェアジャパン 2015 は以下で開催予定。

- ・会議名称：ソフトウェアジャパン 2015  
「ICT によるイノベーションの創出  
～スマートシティからオリンピック・パラリンピックまで～」
- ・開催日時：2015 年 2 月 3 日 (火) 9:30 ~ 18:40
- ・開催会場：タワーホール船堀
- ・<http://www.ipsj.or.jp/event/sj/sj2015/>

### 会員サービスのご案内

会員の皆様に特典としてご利用いただける各種サービスをご案内いたします(本会 Web ページ：<https://www.ipsj.or.jp/member/other/yutai.html> 参照)。会員特典等にご意見ご要望等がございましたら事務局会員サービス部門(E-mail:mem@ipsj.or.jp)までお寄せください。

- ◆ ホテル (5 ~ 53%割引)  
JR ホテルグループ、グランビスタホテル&リゾート、ダイワロイヤルホテルズ、東急ホテルズ、阪急阪神第一ホテルグループ、ホテル法華クラブ、プリンスホテル、都ホテルズ&リゾート、FUJIYAMA 倶楽部、ウィクリーマンション東京
- ◆ レンタカー (最大 55%割引)  
ニッポンレンタカー、日産レンタカー、タイムズカーレンタル
- ◆ パック旅行 (3 ~ 5%割引)  
日本旅行、近畿日本ツーリスト、トップツアー、京王観光
- ◆ UC 丸善アカデミックカード (10%割引)
- ◆ パーシティウェブ コンピュータソフト (教育機関所属の方はアカデミック価格で)
- ◆ デスカット レンタルオフィススペース (会員証の提示により「2 回目以降で使える 500 円無料券の進呈」)

## 2015 年度会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」モニタ募集のお知らせ

会誌編集委員会  
デジタルプラクティス編集委員会

会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」をより良くするために編集委員一同努力を続けておりますが、会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。

関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格 本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割 「情報処理」巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html>) から、毎月アンケートに回答する。

- ・記事に対する評価
- ・記事に対する感想・意見
- ・記事テーマの提案
- ・そのほか全般的な意見・提案など

注) 記事をすべて読むといったことは必ずしも必要ではありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野などを基準とした「独断と偏見による」自由な意見を期待します。

期 間 原則として1年間(2015年4月～2016年3月)。\*最長3年までとします。

対 象 号 会誌「情報処理」56巻5号～57巻4号、および年に4回 Web ページ (<https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/>) にて公開される「デジタルプラクティス」

謝 礼 貴重なご意見をいただいた方には薄謝または記念品を贈呈します。

募集人員 特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切 2015年2月27日(金)必着 \*申込書を Fax するか、または E-mail でお申し込みください。

申込/照会先 情報処理学会 会誌編集部門(モニタ係)

### 2015 年度会誌「情報処理」および「デジタルプラクティス」モニタ申込書

宛先: 情報処理学会 会誌編集部門(モニタ係)

E-mail: [editj@ipsj.or.jp](mailto:editj@ipsj.or.jp) Fax(03)3518-8375

氏 名

会員番号 ( )

住 所 〒

所 属

E-mail:

Tel ( ) -

Fax ( ) -

年 齢 ( 歳)

業種: (a) 企業(サービス業) (b) 企業(製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関(大学・高専など) (e) 学生 (f) その他

職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職  
(g) 教員(大学・大学院) (h) 教職員(小・中・高校・高専など) (i) 学生 (j) その他

あけましておめでとうございます。今回は新年号ということで30年先を考える「シンギュラリティ」の特集を行いました。従来の会誌で扱う内容とは異なり仮説ベースの話が広がっていくので違和感があるかもしれません。米国を始め海外では多額の国家予算が投じられていたり、大企業が多額の投資を行っているなど、「本気」のモードが見られるのに対し、日本ではまだまだ認知度が低く、多くの研究者や企業も受け身で捉えているようですので、今回この話題を取り上げた次第です。また、人工知能分野固有の話のように感じられた人もいるかもしれませんが、それは少し違います。ロボティクス、ゲノム、ナノなどの技術を使って、人とコンピュータが非常に短期間で融合していくシナリオがベースとなっていますので、人々のくらしと情報処理技術全般にかかわる近未来の話として捉えてい

ただくのがよいと思います。年末年始には、日常業務を離れてご家庭や新年会、同窓会などのなかで大いに議論していただければ嬉しい限りです。よろしければご感想やコメントなどを編集部にお寄せくださいませ。

(塚本昌彦／本特集エディタ)



本特集は、ESS ロボットチャレンジにご尽力いただいた方々を中心に執筆をお願いしました。その編集・執筆活動の始まりは、2013年度のチャレンジが終了し、その反省と次年度のキックオフの運営会議の合宿で行った11月9日・10日です。このような運営の場で我々は、学生に役立つことは何か、研究に貢献できることは何かということを議論し、毎年、イベント内容を工夫してきました。最初の頃は運営委員が、設計、プログラミング、工作をしたこともありましたが、本チャレンジを10年続けることができたのは、競技会での活気に溢れた学生たちの姿にあります。当日、会場入りすると学生たちの熱気に圧倒され、もっと頑張る良い運営ができていれば、努力している学生たちに、もっと貢献できたのにと反省です。それが翌年につながっているのかもしれない。

このような話をする、ロボットは楽しいので学生が頑張るのは当然というご意見をいただくことがあります。编者自身、本チャレンジを始めた際は同様の気持ちでした。ところが学生チームを指導する中で最も苦勞することは、学生たちのモチベーション維持です。编者の経験から、短期間、すなわち2週間以内の集中講座、または毎週2コマの授業時間のみならずPBLならば学生たちの興味は維持できます。本チャレンジの開発期間は連続した半年の長期です。ロボット開発への興

味の強さや優先度は、学生によって異なることから、半年の間、1つの目標を目指すことは容易ではありません。また競技では、チーム内で納得できる程度にはモノを作らなければなりません。本やネットで軽く仕入れた知識では歯が立たず、友だちと協力したり、何度も実験したりしなければなりません。これが競技の良いところですが、学生にとっては、友だちにも教員にも誤魔化しが効かず大変厳しいことです。

競技の運営、学生チームの指導は容易ではなく辛く感じることも多々あります。それに見合う学習効果について编者もこれまで何度も自問自答してきました。今回、本特集の機会を与えてくださったことで、これまで以上に本チャレンジの意義について議論し、我々の貢献を明らかにし、自信へとつなげることができました。特に10周年の座談会は感慨深く、本チャレンジで活躍した卒業生たちが素晴らしく成長したこと、今後の継続と発展を希望していることを確認することができました。本特集により、次の10年に向けて良い出発ができたと思います。最後に、執筆いただいた皆様、そしてESS/MDD ロボットチャレンジを支えてくださった皆様に心より感謝を申し上げます。

(渡辺晴美／本特集ゲストエディタ)

広告のお申込み

■広告料金表

掲載場所	4色	2色	1色
表2	330,000円 (税込356,400円)	—	—
表3	275,000円 (税込297,000円)	—	—
表4	385,000円 (税込415,800円)	—	—
表2対向	300,000円 (税込324,000円)	—	—
表3対向	265,000円 (税込286,200円)	190,000円 (税込205,200円)	155,000円 (税込167,400円)
前付1頁	250,000円 (税込270,000円)	165,000円 (税込178,200円)	135,000円 (税込145,800円)
前付1/2頁	—	—	80,000円 (税込86,400円)
前付最終	—	—	148,000円 (税込159,840円)
目次前	—	—	148,000円 (税込159,840円)
差込 (A判70.5kg未満 1枚)	275,000円 (税込297,000円)		
差込 (A判70.5kg～86.5kg 1枚)	350,000円 (税込378,000円)		
同封 (A判 1枚)	350,000円 (税込378,000円)		

■「情報処理」

発行 一般社団法人 情報処理学会  
 発行部数 20,000部  
 体裁 A4判  
 発行日 毎当月15日  
 申込締切 前月10日  
 原稿締切 前月20日  
 広告原稿 完全版下データ  
 原稿寸法 1頁 天地260mm×左右180mm  
 1/2頁 天地125mm×左右180mm  
 雑誌寸法 天地297mm×左右210mm

■問合せ・お申込み先

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-21-27  
 アドコム・メディア(株) (Tel/Fax/E-mailは下に記載)

\*原稿制作が必要な場合には別途実費申し受けます。  
 \*同封のサイズ・割引の詳細についてはお問合せください。

掲載広告の資料請求

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、ご希望の会社名にチェック☑を入れ、送付希望先をご記入の上、Faxにて（またはE-mailにて必要事項を記入の上）アドコム・メディア(株)宛にご請求ください。

■「情報処理」56巻1号 掲載広告（五十音順）

- インタフェース ..... 表2                       フォーラムエイト ..... 目次前  
 オーム社 ..... 表2対向                       三菱電機 ..... 表3  
 講談社 ..... 前付最終下  
 とめ研究所 ..... 前付最終上                       すべての会社を希望  
 日本電気 ..... 表4

■資料送付先

フリガナ  
お名前 \_\_\_\_\_

勤務先 \_\_\_\_\_ 所属部署 \_\_\_\_\_

所在地 (〒 \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

TEL ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_ - \_\_\_\_\_ FAX ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

ご専門の分野 \_\_\_\_\_



お問合せ・お申込み・資料請求は

広告総代理店 **アドコム・メディア(株)**

Tel.03-3367-0571 Fax.03-3368-1519 E-mail: sales@adcom-media.co.jp

# ご意見をお寄せください!

【1月10日頃までにお出してください】

宛先 一般社団法人 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)  
http://www.ipsj.or.jp/magazine/enquete.html Fax(03)3518-8375 E-mail: editj@ipsj.or.jp  
(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)  
※ ご意見の投稿に伴う、住所、氏名、所属などの個人情報については、学会のプライバシーポリシーに準じて取り扱いいたします。  
http://www.ipsj.or.jp/privacypolicy.html

[コード]

(1) ご氏名	
(2) ご所属	Tel. ( ) -
(3) E-mail:	
(4) 業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など) (e) 学生 (f) その他	4- [ ]
(5) 職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務 (f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教職員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など) (i) 学生 (j) その他	5- [ ]
(6) 年齢: (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上	6- [ ]
(7) 性別: (a) 男性 (b) 女性	7- [ ]
(8) あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ	8- [ ]
(9) あなたのご意見は「会員の広場」(会誌および Web) に掲載される場合があります。その場合: (a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 (c) 掲載を希望しない	9- [ ]
(10) 今月号 (2015年1月号) の記事は良かったですか。下記の記事すべてについて評価をご回答ください。 [a...大変良い b...良い c...普通、どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない]	
巻頭コラム: 報道現場の IT	10-1- [ ]
特集: 新年特別企画: 人類と ICT の未来: シングularity まで 30 年?	
1. 来たるべき Singularity と超知能の驚異と脅威	10-2- [ ]
2. Singularity と人工知能の将来	10-3- [ ]
3. Singularity をめぐる論点	10-4- [ ]
4. Singularity のもたらすビジネスインパクト	10-5- [ ]
5. Singularity 大学	10-6- [ ]
6. Singularity ベンチャーと問題解決事例	10-7- [ ]
7.1 Singularity の向こうにあるもの	10-8- [ ]
7.2 Singularity への哲学的逡巡	10-9- [ ]
7.3 Singularity: 微動だにせず	10-10- [ ]
7.4 <人間とは何か>を超越した知性	10-11- [ ]
7.5 Singularity へ向けてあなたと私はどうしたいか?	10-12- [ ]
7.6 Singularity への疑問 SF の視点で	10-13- [ ]
7.7 フェルミのパラドックスと Singularity	10-14- [ ]
IT 好き放題: ICT における信号と雑音	10-15- [ ]
特集: 分野を超えたものづくりと教育	
1. MDD/ESS ロボットチャレンジの原点	10-16- [ ]
2. 大学における実践的教育へのチャレンジ	10-17- [ ]
3. ロボットチャレンジを用いた分野・地域を超えた Project-Based Learning	10-18- [ ]
4. 組込みシステムのためのモデル駆動開発技術	10-19- [ ]
5. 組込みシステムの共通問題: 飛行船システム競技	10-20- [ ]
6. 制御工学から見たソフトウェア	10-21- [ ]
7. ロボットチャレンジ課題を用いた機械学習応用教育	10-22- [ ]
8. ロボット PBL を学部導入教材として活用する	10-23- [ ]
9. 小型飛行船を使った初等中等教育向け情報教育	10-24- [ ]
10. ESS ロボットチャレンジ 10 周年座談会	10-25- [ ]
11. 速報	10-26- [ ]
特別鼎談: 編集長 3 人は語り尽くせなかった	10-27- [ ]
べた語義: 情報処理学会と文京区教育委員会との連携	10-28- [ ]
べた語義: 一般情報教育の全国実態調査 (2)	10-29- [ ]
古機巡礼/二進伝心: オーラルヒストリー: 天羽浩平氏インタビュー	10-30- [ ]
ピブリオ・トーク: ポスト・ヒューマン誕生	10-31- [ ]
会誌編集委員会女子部	10-32- [ ]
会議レポート: UbiComp/ISWC 2014 および AutomotiveUI 2014 参加報告	10-33- [ ]

〔11〕本号で最も良かった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入）、その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔11-1〕良かった記事 ..... 11-1- [ ]  
〔11-2〕この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 ..... 11-2- [ ]  
〔11-3〕選んだ理由（下記から、いくつでも選択可） ..... 11-3- [ ]  
a) 技術・研究動向がよく分かった b) 知的興味をかきたてられた c) 新たな知識を得ることができた d) 内容が平易で理解しやすかった  
e) その他（具体的に下記にご記入ください）

〔12〕本号で最も良くなかった記事は何ですか？ 上記〔10〕の設問の記事番号から1つだけ選び（例：10-8の記事の場合は「8」と記入）、その理由をご回答ください。上記に掲載されていない記事の場合はタイトルを直接ご記入ください。

- 〔12-1〕良くなかった記事 ..... 12-1- [ ]  
〔12-2〕この記事に対する貴方の立場：a) 専門家 b) 非専門家 ..... 12-2- [ ]  
〔12-3〕選んだ理由（下記から、いくつでも選択可） ..... 12-3- [ ]  
a) 記事の内容に誤りがあった b) ありきたりの内容だった c) 記事が難しすぎた d) 何を言いたいのか分からなかった e) 宣伝の意図が強すぎる  
f) テーマに興味を持てなかった g) その他（下記に具体的に下記にご記入ください）

〔13〕今号の特集に対する貴方の立場を教えてください。

- 〔13-1〕人類とICTの未来：シンギュラリティまで30年？：a) 専門家 b) 非専門家 ..... 13-1- [ ]  
〔13-2〕分野を超えたものづくりと教育：a) 専門家 b) 非専門家 ..... 13-2- [ ]

〔14〕設問〔10〕で読んでいないと答えた記事について、その理由を教えてください。

〔15〕会誌に対するご意見や感想、著者への質問、巻頭コラムに登場してほしい人物、今後取り上げてほしいテーマなどありましたらご記入ください。（スペースが足りない場合はお手数ですが別紙を追加してください）

## 次号（2月号）予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

### 「特集」ウェルネスのためのIT

生活習慣改善の継続支援技術—パーソナル・ヘルスケア実現に向けて—/日本のレセプト・健診データベースの有効活用を目指して/高齢者の認知機能低下を予防する技術—防ぎうる認知症にかからない社会の実現に向けて/ICTを用いた運動・身体活動の測定方法と健康増進への活用/デジタル・ビューティー/ウェアラブル/ユビキタスセンシングとヘルスケア/セルフモニタリングのための画像を用いた食事記録ツール：FoodLog

### 「小特集」情報オリンピック

国際情報オリンピックと日本情報オリンピック/IOI2014台湾大会に参加して/情報オリンピックで出題される課題の紹介

教育コーナー：ぺた語義

連載：ビブリオ・トーク/会誌編集委員会女子部

コラム：巻頭コラム/シニアコラム：IT好き放題



## 賛助会員のご紹介

本会をご支援いただいております賛助会員をご紹介します。

Web サイト (<http://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/sanjo.html>) 「賛助会員一覧」のページからも  
各社へリンクサービスを行っておりますので、ぜひご覧ください。

照会先 情報処理学会 会員サービス部門 E-mail: [mem@ipsj.or.jp](mailto:mem@ipsj.or.jp) Tel.(03)3518-8370

### ●●● 賛助会員 (20 ~ 50口)

**HITACHI**  
Inspire the Next

(株) 日立製作所

**FUJITSU**

富士通 (株)

**NEC**

日本電気 (株)

**MITSUBISHI  
ELECTRIC**  
*Changes for the Better*

三菱電機 (株)

**TOSHIBA**

(株) 東芝

**IBM**

日本アイ・ビー・エム (株)

### ●●● 賛助会員 (10 ~ 19口)

**Google**

グーグル (株)

**GREE**

GREE (株)

**NTT docomo**

(株) NTTドコモ

**NTT**

日本電信電話 (株)

**Microsoft**

日本マイクロソフト (株)

### ●●● 賛助会員 (3 ~ 9口)

**NTT Data**

NTT データ (株)



NTTコムウェア

NTTコムウェア (株)

**OKI**

沖電気工業 (株)

**楽R天**

楽天 (株)

**JISA**

情報サービス産業協会

**uejima**

(株) うえじま企画

**SANBI**

三美印刷 (株)

**SONY**

ソニー (株)

**Panasonic**

パナソニック (株)

**Plat'Home**

ぶらっとホーム (株)

### ●●● 賛助会員 (2口)

**KDDI**  
KDDI R&D LABS

(株) KDDI 研究所

**NTTAT**

NTT アドバンステクノロジー (株)

**SPC**

三協印刷 (株)

**JR**  
JR東日本

鉄道情報システム (株)

**KCT**  
KCT

(株) ナレッジクリエーション  
テクノロジー



日本放送協会  
放送技術研究所

**HITACHI**  
Inspire the Next  
日立システムズ

(株) 日立システムズ

インテル (株)

【A～Z】

(株) ATR-Trek  
 (株) CIJ  
 (株) CIJネクスト  
 (株) HBA  
 (株) IT働楽研究所  
 JRC エンジニアリング(株)  
 (株) JTB法人東京 法人営業川崎支店  
 (株) K&S  
 (株) KDDI研究所  
 MHI エアロスペースシステムズ(株)  
 (株) NEC 情報システムズ  
 NECソリューションイノベータ(株)  
 プラットフォーム第二事業本部  
 NECソリューションイノベータ(株)  
 企画本部  
 NECソリューションイノベータ(株)  
 技術統括部  
 NECソリューションイノベータ(株)  
 東北支社  
 NEC フィールドディング(株)  
 NTT アドバンステクノロジー(株)  
 NTTコムウェア(株)  
 NTTソフトウェア(株)  
 (株) NTT データ  
 (株) NTT データ・アイ  
 (株) NTT データ関西  
 (株) NTT データ九州  
 (株) NTT データ東海  
 (株) NTT データ東北  
 (株) NTT ドコモ  
 (株) OKI ソフトウェア  
 (株) PFU  
 SCSK (株)  
 TDC ソフトウェアエンジニアリング(株)  
 TIS (株)

【あ行】

(株) アークスジャパン  
 アートシステム(株)  
 アイアンドエルソフトウェア(株)  
 (株) アイヴィス  
 (株) アイ・エス・ビー  
 アイシン・コムクルーズ(株)  
 アイシン精機(株)  
 (株) アイズファクトリー  
 アドコム・メディア(株)  
 (株) アドバンス トラフィック システムズ  
 (株) アドバンス・メディア  
 (株) アルファシステムズ  
 (株) いい生活  
 (株) イーブックイニシアティブジャパン  
 池上通信機(株)  
 伊藤忠テクノソリューションズ(株)  
 (株) インテック

インテル(株)  
 インフォサイエンス(株)  
 (株) ヴァル研究所  
 ヴィスコ・テクノロジー(株)  
 (株) うえじま企画  
 (株) エィ・ダブリュ・ソフトウェア  
 (株) エクサ  
 エクセルソフト(株)  
 (株) エスケーエレクトロニクス  
 エヌ・ディー・アール(株)  
 (株) エルザジャパン  
 オークマ(株)  
 (株) 大塚商会  
 (株) オーム社  
 沖電気工業(株)  
 (株) 小野仁  
 オムロン(株)

【か行】

(独) 科学技術振興機構  
 (公財) 画像情報教育振興協会  
 (学) 片柳学園日本工学院専門学校  
 (学) 片柳学園日本工学院八王子専門学校  
 関西テレビソフトウェア(株)  
 関電システムソリューションズ(株)  
 (一財) 機械振興協会  
 キヤノン(株)  
 キヤノン(株) 総合R&D研究開発推進部  
 キヤノンITソリューションズ(株)  
 キヤノンソフトウェア(株)  
 (公財) 九州先端科学技術研究所  
 共立出版(株)  
 (株) 近代科学社  
 グーグル(株)  
 グリー(株)  
 (株) コア 中四国カンパニー  
 (株) 構造計画研究所  
 国立国会図書館・情報メディアセンター  
 国立国会図書館  
 コニカミノルタ(株)

【さ行】

サクサ(株)  
 サクシード(株)  
 三協印刷(株)  
 三美印刷(株)  
 (株) シーエーシー  
 (株) ジーダット  
 (株) ジェイアールシステム・エンジニアリング  
 (株) ジェイアール東日本情報システム  
 システム・オートメーション(株)  
 シャープ(株)  
 (株) ジャステック  
 (株) ジャパンテクニカルソフトウェア

(一社) 情報サービス産業協会  
 (独) 情報処理推進機構  
 新日鉄住金ソリューションズ(株)  
 住友電気工業(株)  
 (株) セガ  
 (株) セカンドセレクション  
 セコム(株)  
 ソニー(株)  
 ソニーグローバルソリューションズ(株)  
 (株) ソフトウェアコントロール  
 (一財) ソフトウェア情報センター  
 ソフトウェア特許情報センター  
 ソフトバンクモバイル(株)

【た行】

(株) 中電シーティーアイ  
 (一社) 中部産業連盟  
 中部電力(株)  
 通研電気工業(株)  
 テービーテック(株)  
 デジタルプロセス(株)  
 鉄道情報システム(株)  
 (公財) 鉄道総合技術研究所  
 (公財) 電気通信普及財団  
 (社) 電子情報技術産業協会  
 (株) 電盛社  
 (株) デンソー  
 (株) デンソー ITソリューションズ  
 (株) デンソーアイティイーラボラトリ  
 (株) デンソークリエイト  
 (株) 電通国際情報サービス  
 (一財) 電力中央研究所  
 東海ソフト(株)  
 東海旅客鉄道(株)  
 (株) 東芝  
 東芝インフォメーションシステムズ(株)  
 東芝システムテクノロジー(株)  
 東芝情報システム(株)  
 東芝ソリューション(株)  
 東芝マイクロエレクトロニクス(株)  
 東芝メディカルシステムズ(株)  
 (株) 東和システム  
 トーヨー企画(株)  
 特許庁  
 トッパン・フォームズ(株)  
 (株) トヨタコミュニケーションシステム  
 トヨタ自動車(株)  
 (株) 豊田中央研究所  
 (株) トヨタデジタルクルーズ  
 (株) ドワンゴ

【な行】

(株) ナレッジクリエーションテクノロジー  
 (株) ニコンシステム  
 日鉄日立システムエンジニアリング

(株)  
 日本アルゴリズム(株)  
 日本電気(株)  
 (株) 日本電気特許技術情報センター  
 日本アイ・ビー・エム(株)  
 (公社) 日本化学会  
 日本銀行  
 (独) 日本原子力研究開発機構  
 日本証券テクノロジー(株)  
 (一財) 日本情報経済社会推進協会  
 (一社) 日本情報システム・ユーザー協会  
 日本信号(株)  
 日本電子計算(株)  
 日本電信電話(株)  
 (一財) 日本品質保証機構  
 日本放送協会 放送技術研究所  
 日本マイクロソフト(株)  
 日本無線(株)  
 日本ユニシス(株)  
 (株) 日本旅行  
 (株) 野村総合研究所

【は行】

(株) ハイエレコン  
 パイオニア(株)  
 萩原電気(株)  
 (有) バクサリー  
 パナソニック(株)  
 パナソニック(株) AVC ネットワークス社  
 パナソニック(株) エコソリューションズ社  
 パナソニック SN エバリュエーションテクノロジー(株)  
 パナソニック SN エバリュエーションテクノロジー(株) 福岡図書室  
 (株) ハピネット  
 日立アイ・エヌ・エス・ソフトウェア(株)  
 (株) 日立国際電気  
 (株) 日立産業制御ソリューションズ  
 (株) 日立システムズ  
 (株) 日立製作所 情報・通信システム社  
 (株) 日立製作所 中央研究所  
 (株) 日立製作所 中国支社  
 (株) 日立製作所 東北支社  
 (株) 日立製作所 横浜研究所  
 (株) 日立ソリューションズ  
 (株) 日立ソリューションズ西日本  
 (株) 日立ソリューションズ東日本  
 (株) 日立ソリューションズ・ビジネス  
 (株) 日立テクニカルコミュニケーションズ  
 (株) ファースト  
 (株) フォーカスシステムズ

(株)フォーラムエイト  
 (株)フジキカイ 名古屋工場  
 富士通(株)  
 (株)富士通アドバンスエンジニアリング  
 (株)富士通エフサス  
 (株)富士通九州システムズ  
 (株)富士通システムズ・イースト  
 (株)富士通システムズ・ウエスト  
 (株)富士通ソーシアルサイエンス  
 ラボラトリー  
 フジテック(株)  
 富士フィルム(株)  
 船井電機(株)  
 フューチャーアーキテクト(株)  
 ブラザー工業(株)  
 ぶらっとホーム(株)

古野電気(株)  
 (株)堀場製作所  
 (株)本田技術研究所基礎技術研  
 究センター

【ま行】

マツダ(株)  
 三井情報(株)  
 (株)ミックナイン  
 三菱UFJモルガン・スタンレー証  
 券(株)  
 三菱スペース・ソフトウェア(株)  
 三菱電機(株)  
 三菱電機インフォメーションシステ  
 ムズ(株)  
 三菱電機インフォメーションネット

ワーク(株)  
 三菱電機コントロールソフトウェ  
 ア(株)  
 三菱電機コントロールソフトウェア  
 (株)伊丹事業所  
 三菱電機メカトロニクスソフトウェ  
 ア(株)  
 (株)三菱東京UFJ銀行  
 三菱プレジジョン(株)  
 武蔵野美術大学  
 (株)メイテツコム

【や行】

ヤフー(株) Yahoo! JAPAN 研究  
 所  
 ヤマハ(株)

横河電機(株)

【ら行】

楽天(株)  
 リードエグジビジョンジャパン(株)  
 (株)リコー  
 (株)リナックス総合研究所  
 (株)リンクレア

注) 一般社団法人・一般財団法人・公益  
 社団法人・公益財団法人はそれぞれ(一  
 社)・(一財)・(公社)・(公財)と省略した。

□□ 協力協定学会との正会員会費相互割引について □□

各学協会との協定により、正会員会費が割引になります。ぜひ、ご活用ください。  
 本会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/member/kyoryoku.html>) にも掲載しております。

●協力協定学会名・相互割引率 (正会員会費が割引対象)

IEEE	(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.)	10%
IEEE-CS	(IEEE Computer Society)	10%
ACM	(Association for Computing Machinery)	20%
CSI	(Computer Society of India)	20%

※協力協定学会の会員費割引については、海外関連団体 (<http://www.ipsj.or.jp/annai/kanrenlink/kaigaikanren.html>) を  
 ご参照いただき、直接お問い合わせください。

●本会への申請方法

会費割引を希望する正会員は、次のフォームから申請してください。8月以降の申請は次年度会費を割引します。

正会員会費割引申請フォーム (<https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-seikaiin-kaihiwaribiki.html>)

初めて申請する方は上記協力協定各学会正会員の会員証コピーを Fax 等で送ってください。割引適用は1学会分といたします。

※これから入会を希望する方も同様に申請できます。入会申込書(正会員) ([https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-nyukai\\_sei.html](https://www.ipsj.or.jp/02moshikomi/mem/m-nyukai_sei.html)) をご確認ください。

■照会先：会員サービス部門 E-mail:mem@ipsj.or.jp Tel(03)3518-8370 Fax(03)3518-8375